

(2) 地域安全学会論文賞・論文奨励賞の授与式

論文賞・論文奨励賞の授与式は総会会場で行われました。授与式では、論文賞・論文奨励賞受賞者選出までの経緯が報告され、つづいて宮野会長から受賞者に、賞状と記念メダルが授与されました。

昨年度(2011年度)は、研究発表会論文と電子ジャーナル論文あわせて76編の投稿があり、査読の結果、37編が採択され、「地域安全学会論文集 No.15 (2011年11月印刷公刊)」、「同 No.16 (2012年3月HP上に公表, 2012年11月印刷予定)」に掲載されました。なお、論文奨励賞は、研究発表会での発表論文のうち「研究発表会論文」の筆頭著者でかつ研究発表会で発表を行なった者であり、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある原則として40歳(当該年度4月1日時点)未満の者を対象とし、当日の発表や質疑の内容を加味した審査によって選考されます。論文賞は、3月の電子ジャーナル掲載論文が全て決定した後開催される審査会にて、推薦された候補者の中から選考されます。

審査の結果、以下の方が論文賞及び論文奨励賞の受賞者として選ばれました。

(学術委員会)

◆◆◆◆◆ 地域安全学会論文賞 ◆◆◆◆◆

審査会における審議の結果、今年度は「該当無し」と決定致しました。

◆◆◆◆◆ 地域安全学会論文奨励賞 ◆◆◆◆◆

■陳 海立 (京都大学防災研究所 (現在, 台北大学))

「生活機能に基づく「基礎生活圈」の抽出手法の開発—紀伊半島, 東日本大震災の被災地域を事例として—」

この度は地域安全学会論文奨励賞をいただき、大変光栄に存じます。誠にありがとうございます。ご指導いただいた林春男先生(京都大学防災研究所)、牧紀男先生(京都大学防災研究所)に深く感謝しております。台湾から来日した最初の数年は自分のコミュニケーション力不足のせいで大変苦労しました。しかしながら、林先生、牧先生と林研究室の良き先輩達に導かれ、地域安全学会の審査委員に認められたことに、本当に感謝いたします。この受賞を契機とし、西日本大震災の事前復興に関する研究に向け、より一層研究に励んでいきたいと思っております。また今後とも皆様の厳しいご指導とご鞭撻のほどを、どうぞ宜しくお願いいたします。

【指導教員からの一言】 牧紀男 (京都大学防災研究所・准教授)

陳さんは今から6年前に来日され、ずっと一緒に研究を進めてきました。最初は論文を提出しても不採用通知の入った「薄い封筒」を受け取って、二人で涙していました。でも、一昨年からは修正

内容のついた「暑い封筒」が来るようになり、今年はずいに「奨励賞」までいただくようになりました。一緒に研究を進めてきたものとして「本当に」うれしく思います。陳さんは、防災さらには地域の計画を行う上で不可欠な「地域の姿」をいかにして定量的に捉えるのかということについて研究を行ってきました。この受賞論文は「地域施設（公共施設、商店等）」のデータを用いて「地域のかたまり」を抽出する方法について検討を行ったものです。陳さんは今年の夏から台北大学の **Assistant Professor** として採用され、台湾に戻られました。今後は、台湾、さらには世界を舞台として、また日本と台湾の架け橋として、活躍されることを期待しております。